

2020 年度 事業報告書

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会

I 2020 年度事業実施の方針（2020 年度事業計画より）

新型コロナウイルス感染症の影響で、生活様式が大きく変化し、これからどうなっていくのか、先が見えない不安のため、心身共に疲労している人は少なくありません。

エンドオブライフ・ケア協会では、いのちが限られる理不尽で不条理な苦しみを抱えた人への援助を学び、関わる担い手を各地に増やす活動をしてきました。その対人援助の基本は、「苦しんでいる人は、自分の苦しみをわかってくれる人がいると嬉しい」という視点です。今は、先が見えない不透明な状況であり、まさに解決できない苦しみを抱えた人がこれから地域にあふれていきます。このような時だからこそ、それぞれの地域で、“わかってくれる人”として、誠実に関わる担い手が必要と考え、オンラインでの繋がりも大切に、活動を継続して参ります。

・主催講座・イベントについて

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、主催する研修やイベントについては対面での実施ではなく、動画による事前学習とオンラインでの演習を組み合わせた形式での実施を基本とする。開催にあたり、各地の認定 ELC ファシリテーターと綿密に連携を図る。

・インハウス研修・依頼講演について

各地域や職能団体主催によるインハウス研修、依頼講演等については、現地の感染状況に基づき主催者の判断も踏まえ、開催判断や形態を協議する。

・「折れない心を育てる いのちの授業」について

2019 年度に引き続き、講師を育成し、各自が対面ないしオンラインで授業が実施できるよう推進する。これにあたり、講師トレーニングならびに講師認定プロセスもオンライン化する。

II 2020 年度の成果

1. 各事業について

(1) 「人生の最終段階」に対応できる人材の育成

弊協会では、超高齢少子化多死時代に備え、看取りを含めた解決困難な苦しみに対応できる人材を育成することを目的として、2015 年 7 月から「エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座」（以降、養成講座）を開催してきた。

2020 年 2 月下旬、新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念されるなか、感染拡大防止の観点から、当面、主催する研修やイベントを対面で開催することを中止する旨、早期に決断した。

認定 ELC ファシリテーターや「折れない心を育てる いのちの授業」認定講師が全国にいることから、ミ

ーティング等での Zoom 活用は以前から行われており、イベントでのトライアルを複数回重ねた後、養成講座のオンライン開催を 2020 年 7 月には初回開催することができた。実際には、動画ベースの e ラーニングによる知識の事前習得とオンライン（Zoom）での実習を組み合わせた形式で開催することとした。

2021 年 3 月までに主催した養成講座の累計は 104 回となった（各地主催のインハウス研修を含む）。累計受講者数は約 6,892 名となり、受講後課題を提出し一定の要件を満たし認定された「エンドオブライフ・ケア認定援助士」は 1,175 名となった。

養成講座の開催にあたっては、全国の認定 ELC ファシリテーターと綿密に連携を図った。小グループに分かれてのロールプレイや事例検討等を進行する役割を担っていただきながら、参加者の学びを支援するとともに、ファシリテーター自身のスキルアップの機会となった。参加者との対話やツール操作への苦手意識を解消できるように、ファシリテーター自身が主催する学習会が、自発的かつ継続的に企画・実施されるようになった。

また、オンライン開催となったことで、講師も参加者もファシリテーターも移動を伴わないため、週をまたいで開催、たとえば、平日夜 4 週に分けての開催が可能となった。これまで参加が難しかった対象者、たとえば離島に住む医師や、小さな子を持つ看護師、親の介護にあたる会社員など、参加がしやすくなったという声が複数あった。現場で実践し、再度学びの場に戻ることに繰り返しにより、学習内容がより実践的なものとなったと前向きな評価が見られた。その一方で、IT 活用への苦手意識や抵抗感も一部にはあり、サポート体制も今後の課題である。

各地域や職能団体主催によるインハウス研修、依頼講演等については、多くは開催中止となったが、オンライン開催の運営を後方支援することで、実現可能となった事例もあった。2021 年度も、現地の感染状況に基づき主催者の判断も踏まえ、開催可否や形態を協議していく。

（2）職種や世代を超えて学び、実践するためのコミュニティを支援する活動

養成講座を受講した後、一定の要件を満たし、それぞれの地域で学習会を開催できるとして認定された ELC ファシリテーターは累計 298 名となり、全国 52 箇所ですべて自発的に学習会コミュニティが誕生している。コロナ禍でも、新たなコミュニティが 2 か所誕生した（ELC とちぎ、ELC 青い国 四国 88）。

2020 年度後半からは、学習会のオンライン開催が増加。「苦しむ人への援助と 5 つの課題」を軸とした標準カリキュラムの内容に留まらず、周辺の学習も合わせて取り入れながら（ACP：アドバンス・ケア・プランニングなど）、学びの内容も場作りも個性的なものが増えており、相互乗り入れや新規立ち上げ支援も見られた。認定 ELC ファシリテーターによる学習会（「折れない心を育てる いのちの授業」および、主催イベントや外部講演会を除く）参加者は、累計 15,228 名のうち、2020 年度は 2,265 名となった。2020 年度は、一般的に多くの講演会等が中止となるなかで、認定 ELC ファシリテーターは、オンラインを中心に、活発に活動していたことが伺える。

(3) 地域コミュニティのレジリエンス強化「折れない心を育てる いのちの授業」

ホスピスや在宅医療の現場から学んできたことを、今を生きる子どもたちへ届けるために、2000年から代表理事である小澤竹俊が1人で始めた学校への出前授業を、2016年から企業や団体と協働し、その後、学校や地域コミュニティで授業を行い、多数の方からアドバイス・フィードバックを頂きながら、プログラムの根幹である「自尊感情・自己肯定感」の学習を中心に改定を重ね、2018年度に、まずは標準プログラム（小学校高学年を想定）が完成した。2019年には、講師トレーニングから認定までの手順を体系化し、システムとして実装開始。対面・録画・オンラインのいずれかの方法で、模擬授業と評価、フィードバックを実施してきた。

こうして築いてきた仕組みが2020年度コロナ禍で活かされ、講師トレーニングをオンラインで2回開催、認定講師による模擬授業の評価・フィードバックを経て、認定された講師は新規に39名、累計90名となった。現在は、オンラインのみで、講師トレーニングから認定後の継続学習まで行い、全国から参加が可能となっている。

コロナ禍で大人だけでなく子どもも苦しい想いをしていたり、自他を傷つける言動が報告されていたりするなか、大阪市教育委員会と連携し、大阪市内の主に小学校から依頼を受けて、10校28クラス897名へ出前授業を実施した。1月に依頼を受けて2か月間のうちに報告まで完了することができたのは、この1年間で認定講師が増え、オンラインでの実施を含めて、経験を積んできたからこそと考える。上記のうち、オンラインでの実施は6クラスあり、地域を超えて、遠方の認定講師が授業を行うことも可能となった。

また、認定講師が独自の繋がりをもとに、特定地域で広がりを見せている（鹿児島市喜入町、唐津市、奄美大島、沖縄市ほか）。学校に限らず、地域コミュニティの様々な場所、たとえば、子ども食堂、病院、寺院、学童保育などでも、感染症に配慮しながら対面、またはオンラインでの授業実施について報告があった。

2020年9月からは、認定講師によるオンラインでの授業実施を支援し、裾野を広げていくためにも、弊協会主催のイベントとして、認定講師自身による授業を月替わり、持ち回りでオンライン開催した。基本となるメッセージは共通だが、各講師の持ち味も活かし文脈を多様化し、親子での参加を歓迎した。これらにより、認定講師には実施に向けたイメージづくりに役立てていただくことができ、参加者には「折れない心を育てる いのちの授業」の魅力を知っていただく機会となった。実際に、認定講師による授業を通して、「折れない心を育てる いのちの授業」を知ったという方々が、講師トレーニングにも参加された。

今後も、プログラムの拡張を重ね、講師を育成・認定し、全国展開できるように、医療・介護の垣根を超えて、他団体・多職種の方々と協働しながら推進していく。

(4) 社会課題と活動への関心を育む取り組み

- メディア掲載・出演

弊協会理事に限らず、認定 ELC ファシリテーター/折れない心を育てる いのちの授業認定講師が、それぞれの地域における活動を新聞、雑誌等に取材いただいたり、テレビ、ラジオ等のメディアに出演したりしたという報告が複数寄せられた。

- 書籍出版

代表理事 小澤による書籍 2 冊が、2020 年 8 月と 2021 年 3 月に上梓された。

- 研究・学会発表・論文投稿等

日本緩和医療学会、日本在宅医療連合学会大会、死の臨床研究会、日本糖尿病教育・看護学会など複数の学会・研究会において、教育講演、ポスター発表を行った。

エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座に基づいた研修効果検証に関わる研究が、千葉宏毅氏（北里大学医学部医学教育研究部門）によって 2018 年から行われており、弊協会として本年度も協力している。

8th Asia Pacific Eldercare Innovation Awards 2020 において、INNOVATION OF THE YEAR - CAREGIVER MODEL 部門 Finalist として表彰された。Asia Pacific Eldercare Innovation Awards とは、アジア太平洋地域において、高齢化社会の変革に取り組む事業、オペレーション、サービスのモデルを、シンガポールの Ageing Asia 社が 2013 年から年次で表彰しているものであり、2020 年度は 15 カ国 88 組織が 25 部門のカテゴリにノミネートされた。超高齢化社会の先をゆく日本から、今後も優れた取り組みが世界に発信され、他国からも学び高めあう機会が増えていくことを願い、弊協会としても、真摯に活動を続け発信していく。

- プロボノ支援

投資・協働先として 2 年間伴走いただいたソーシャルベンチャー・パートナーズ東京（以下、SVP 東京）との協働が終了した。組織基盤づくりを始めとして、「折れない心を育てる いのちの授業」講師認定の仕組みづくりに向けて、強力な人的支援を得ることができた。引き続き、各メンバーから非公式な形での協力を得ている。

認定 NPO 法人サービスグラントが推進する企業プロボノとして、日立グループ社員に 2 か月間支援をいただき、受講者・潜在受講者の声を整理することができた。

1 月からは SMBC 日興証券プロボノワークとして、中期ビジョン策定に向けて、6 月までの予定で伴走支援をいただいている。

こうしたプロボノ支援を通して、働く世代が活動テーマを知り、自分ごとと捉えていただけることもまた、事業成果の一つと考える。

(5) 現役世代 / 将来世代の「もしも」に備える

エンドオブライフ・ケア協会設立 5 周年シンポジウム「新型コロナ・ショックに備えて私たちができること（オンライン）」を 2020 年 4 月 18 日にオンラインにて開催。当初、会場で開催する予定だったイベントを、外部協力者の支援を得ながらスムーズにオンライン開催へ切り替えることができた。

2020 年度は上記を皮切りに、新企画としてオンラインのイベントシリーズを複数開催した。

問いをベースにした対話型オンラインイベント「新型コロナ・ショックに備えて最強のチームをつくろう」は、これまで、代表理事が経営するめぐみ在宅クリニックが、地域の援助職を対象とした「地域緩和ケア研究会」として累計 100 回以上開催してきたものを、オンライン化してどなたでも参加可能とした。毎月第 3 火曜日開催で、2020 年度は 12 回開催し、毎回 100 名前後の方に参加いただいた。

また、専門職種としてこれから現場の一翼を担う学生への教育を重要な活動の一つと捉え、医学部教育（卒前教育）における対人援助のプログラムとして、2020 年度には、以下 5 つの医学部で講義を行った。長崎大学医学部、愛媛大学医学部、昭和大学医学部、東京医科大学医学部、北里大学医学部

さらに、専門職に限らず、幅広く将来世代が活動に関心を示し、若手と経験者が相互の取り組みから学べる機会を大切にしたいと考え、「エンドオブライフ・ケアを通して折れない心を学ぶ学生の集い」を 3 回主催。学生を始め、若手とベテランが交流し、対話する機会とした。その後は学生団体と共催し、コロナ禍の孤独をテーマに、主に学生が主体となり、弊協会の認定 ELC ファシリテーターが小グループでの対話を支援した。

2. 法人運営について

(1) 組織体制の変更

活動領域の広がりに伴い、理事の交代と監事・アドバイザーの新任を含めた組織体制の変更を行った。理事会設置型組織へ移行し、年 3 回予定の理事会のうち、体制変更後、10 月と 2 月に計 2 回開催した。

(2) 会員データベース等システムの刷新

会員ならびに利用者の増加、提供サービスの多様化に伴い、システムの処理が複雑化しており、これを刷新すべく、現状の業務フローとあるべき姿、必要な機能を整理した。ユーザーのインターフェースとなるホームページについては、デザインの一部変更に留め、全面的なユーザビリティの改善を来年度以降に行うことを視野に、今年度は利用者の声を収集し、軽微な改善に留めた。

問い合わせの増加とこれに対応する稼働の増加については、コンタクトセンター機能のあるソフトウェアを導入した上でオペレーションの改善を図るべく、調査を進めている。

III 事業の実施状況

事業名/活動内容	実施日	実施場所	人数(人)
(1) 「人生の最終段階」に対応できる人材の育成			
「エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座」 (公開講座)	2020/7/25-26	オンライ ン	44
	2020/8/29-30		40
	2020/9/12-13		27
	2020/10/17-18		28
	2020/11/5-6		15
	2020/11/14-15		13
	2020/12/5-6		17
	2021/1/16-17		20
	2021/1/20,27,2/3,10		15
	2021/1/30-31		13
	2021/2/13-14		21
	2021/3/6-7		24
	2021/3/18,25.4/1,8		10
	2021/3/20-21		21
「エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座」 (インハウス研修)	2020/12/12-13	徳島	32
「認定エンドオブライフ・ケア援助士」の認定	通年	-	213
(2) 職種や世代を超えて学び、実践するためのコミュニティを支援する活動			
「認定 ELC ファシリテーター」の認定	通年	-	29
地域学習会 (認定 ELC ファシリテーターによる学習会。「折れない心を育てる いのちの授業」および、主催イベントや外部講演会を除く)	通年	オンライ ン/ 各地域	2,265
(3) 地域コミュニティのレジリエンス強化「折れない心を育てる いのちの授業」			
「折れない心を育てる いのちの授業オンライン」 (認定講師による 公開授業)	(1) 親子で育むいのちの授業 (中村マサ子氏・鎌田直子氏)	2020/9/19	52
	(2) ゴヂカラスゴロク：5つの力 (チーム ゴヂカラ：清田直美氏、前川春美氏、野尻明子氏、宮川美由紀氏、笠原健太郎氏)	2020/10/4	50

	(3)0才も100才も みんなでつなぐいのち (笠原健太郎氏・中島直子氏)	2020/11/29		71
	(4)声に出して読みたい いのちの授業 (小齊平智久氏・池上美弥子氏)	2020/12/19		50
	(5)「だってコロナなんだから」にモヤモヤしているあなたへおくる3つのレッスン (濱田努氏)	2021/1/11		90
	(6) 差別、偏見、いじめ・・・コロナ禍で優しくなれないあなたへ伝えるいのちの授業 (長野宏昭氏・親泊朝光氏)	2021/2/20		74
	(7)～暮らしの保健室から見える風景～ (久保田千代美氏・宮崎響氏)	2021/3/14		80
認定講師による授業		通年	オンライ ン/ 各地域	5,852
講師トレーニング		2020/4/5	オンラ	50
		2020/12/20	イン	52
「折れない心を育てる いのちの授業 認定講師」の認定		通年	オンラ イン	39
(4) 社会課題と活動への関心を育む取り組み				
書籍	『苦しみのない人生はないが、幸せはすぐ隣にある』 (幻冬舎)	2020/9/17	-	-
	『もしあと1年で人生が終わるとしたら?』 (アスコム)	2021/3/20	-	-
メディア出演 (一部)	『エミリーの世界につなげよう～Join us～』 (Shibuya Cross-FM)	2020/5/12 2020/8/4 2020/11/10 2021/2/2	-	-
	『NNN ドキュメント：そして、命に寄り添う』 (日本テレビ) ※認定 ELC ファシリテーター結城光氏の取り組み (ディグニティセラピー)	2020/7/5	-	-
	『ロンドンブーツ1号2号田村淳のNewsCLUB』 (文化放送)	2020/11/7	-	-

メディア掲載 (一部)	『yomiDr.ヨミドクター』（読売新聞社）	2020/4/22	-	-
	『唐津新聞』 ※唐津市の「折れない心を育てる いのちの授業」認定講師の方々の取り組み	2020/9/24	-	-
	YAHOO JAPAN！ニュース ※「折れない心を育てる いのちの授業」認定講師 小川信氏の取り組み (いのちの授業)	2020/12/11	-	-
	『琉球新報』 ※「折れない心を育てる いのちの授業」認定講師 長野宏昭氏の取り組み (いのちの授業)	2020/12/13	-	-
	『月刊ケアマネジャー』（中央法規出版社）2020年12月号	2021/1	-	-
研究・学会発表・論文 投稿等	日本緩和医療学会、日本在宅医療連合学会大会、死の臨床研究会、日本糖尿病教育・看護学会など複数の学会・研究会において、教育講演およびポスター発表	通年	-	-
	8th Asia Pacific Eldercare Innovation Awards 2020 において、INNOVATION OF THE YEAR - CAREGIVER MODEL 部門 Finalist として表彰	2020/11/25	-	-
プロボノとの協働	SVP 東京	～2020/9	-	-
	日立企業プロボノ	2020/10～2020/12	-	-
	SMBC 日興証券プロボノワーク	2021/1～	-	-
(5) 現役世代 / 将来世代の「もしも」に備える				
設立5周年 シンポジウム	新型コロナ・ショックに備えて私たちが できること	2020/4/18	オンラ イン	250
「新型コロナ・ショッ クに備えて最強のチー ムを作ろう」	Vol.1 私たちは何をめざすのか	2020/4/21	オンラ イン	70
	Vol.2 誰かの支えになろうとする自分自 身の支えを知る	2020/5/19		61
	Vol.3 わかってくれる人になるために 「聴く」力を学ぶ	2020/6/16	オンラ イン	128
	Vol.4 死を前にした人にあなたは何かで きますか？ ～援助を言葉にすれば、何 をするとよいかが見えてくる～	2020/7/7		102

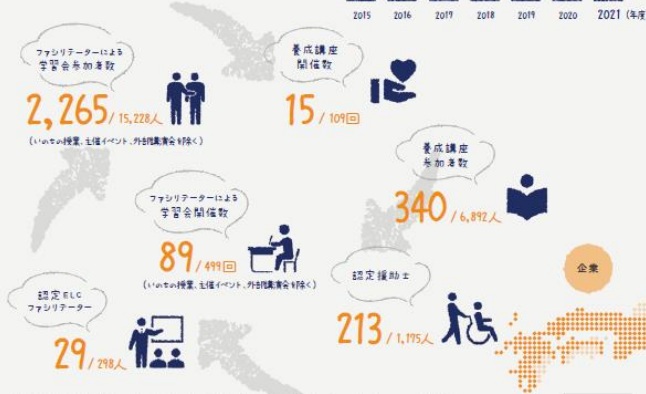
	Vol.5 なぜ人は、大切な人を失うと悲しい気持ちになるのでしょうか？	2020/8/18		101
	Vol.6 はなれていても、だいじょうぶ (ゲスト：副島賢和氏)	2020/9/15		79
	Vol.7 苦しみのない人生はないが、幸せはすぐ隣にある	2020/10/20		70
	Vol.8 デイグニティセラピー	2020/11/17		80
	Vol.9 佐々木淳先生と語る日本の在宅医療・高齢者ケアの未来像 (ゲスト：佐々木淳氏)	2020/12/15		120
	Vol.10 生活の中で行うアドバンス・ケア・プランニング (ACP) -意思表示編- (ゲスト：西川満則氏・大城京子氏)	2021/1/19		127
	Vol.11 生活の中で行うアドバンス・ケア・プランニング (ACP) -意思決定・実現編 (ゲスト：西川満則氏・大城京子氏)	2021/2/16		116
	Vol.12 デイグニティセラピーと現場の私たち (その1) デイグニティセラピーとデイグニティ・モデル	2021/3/16		150
「エンドオブライフ・ケアを通して折れない心を学ぶ学生の集い」	Vol. 1	2020/9/14	オンライン	60
	Vol. 2	2020/11/9		40
	Vol. 3	2021/1/13		38
他団体連携	第3回 医療デザイン大学 LIVE 親子で参加したい!!「こころの表現授業」聴いて・書いて・話して・動いて ーモヤモヤの正体を発見しようー (主催：日本医療デザインセンター)	2020/8/8	横浜/ オンライン	150
	日本医療デザインセンター様対談 シリーズ 映像①～⑦	-	-	-
	# コロナ 4C チャレンジ	-	-	-
	悩みとの向き合い方を知ろう！ ～大学生活を 120%楽しむ～ (主催：ココカラアース)	2021/3/8		20
企業向け研修		通年	-	100

2020年度実績 2020.04.01~2021.03.31

人生の最終段階に関わる人材の育成

エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座

- ・オンライン化により、参加者も主催者も時間や場所の制約が減り、多様性が増加
- ・ロールプレイや事例検討などグループワークを認定、ELC ファシリテーターがサポート、細やかな運営が可能です



現役世代 / 将来世代の「もしも」に備える

- ・問いをベースにした対話型オンラインイベントを、毎月第3火曜日開催
- ・「親の介護と仕事の両立」や「学生の孤独感」など、それぞれの世代が抱える課題への対応として、関係団体と連携関係団体と連携

コロナが流行してからすぐに小学校に走り、子供たちの「なぜ」に向き合う講座を、開くことから始まった2020年。オンライン化が進み、鹿児島から全国を飛び回ることを経験できた運動の年でした。

理事 濱田 勇

- ・新型コロナショックに備えて最悪のチームをつくらう
- ・5周年シンポジウム
- ・折れない心を育てる 学生の集い

イベント開催数: 16回
イベント参加者数: 1,592人

コロナ禍の1年ではありませんが、オンライン化が進んだ1年でした。特に養成講座2日間の集合研修をオンライン化できたことは、画期的な1年でした。その実施にあたり、全国のファシリテーターの存在が、質の高い研修を実施できた理由です。この場を借りて心から謝礼申し上げます。たとえ解決困難な状況に遭遇しても、支えがあれば活動を続けられることを実感した1年でした。社会的孤立が増えていくこれからの備えのため、地域の担い手が増えていくための活動を、ELCの仲間だけではなく、それぞれの地域で活動されている他の団体と、今まで以上に連携する大切さを学んだ1年でもありました。

代表理事 小澤 竹俊
めでた在宅クリニック院長

地域コミュニティのレジリエンス強化

折れない心を育てるいのちの授業プロジェクト

- ・コロナ禍で苦しむ子どもたちへ大阪市立小学校への出張授業
- ・親子で参加可能。テーマ性のあるオンラインイベントを毎月開催
- ・講師認定プロセスを通じた講師の学び合い

OKプロジェクトは、講師育成・認定・授業実施までオンラインの仕組みができ、それを支えるボランティアの習熟との協働と学び合いの1年でした。また、対面授業の引き合いも増加、心への影響を察しています。



コミュニティの形成と学習会の開催支援

- ・オンラインでの講演や学習会の増加
- ・業界・職種・世代を超えた交流
- ・他団体との連携

毎月の地域学習会をオンラインに切り替え、全国の人の交流ができました。オンライン講座の聞き方を研究し、援助者養成基礎講座の夜学を開催する運びとなりました。学会発表、雑誌への執筆など充実した年でした。

理事 久保田 千代美

社会課題と活動への関心を育む取り組み

- ・企業によるプロボノの参画
- ・教育効果に関わる研究

以上